

複合的資源管理型漁業促進対策事業調査

刺網漁業改善調査

(抄録)

藤川 義一

はじめに

刺網漁具による漁獲実態から異体類の季節的な分布生態を把握するとともに、刺網操業改善のための基礎資料を得ることを目的とした。

結 果

1. 刺網標本船調査

太平洋南部海域では、3寸5分目未満の網目を多く使用していた。

太平洋海域の刺網の留網日数は、おおむね1日以内であった。

陸奥湾海域では数日間の留網が顕著に認められた。

2. 目合別刺網漁獲調査

太平洋海域ではヒラメ、マコガレイ、イシガレイが多く漁獲された。

陸奥湾海域の平内町地先ではマガレイが多く漁獲された。

漁獲量、漁獲金額は、最も小さな目合の3寸3分目で高い値を示し、目合の拡大に伴い減少した。

漁獲された魚体の平均全長と目合の関係には、相関が認められた。

3. 魚礁周辺刺網漁獲調査

異体類の漁獲尾数は、魚礁周辺では対照区と比較して多かった。